

1 事業の背景・目的

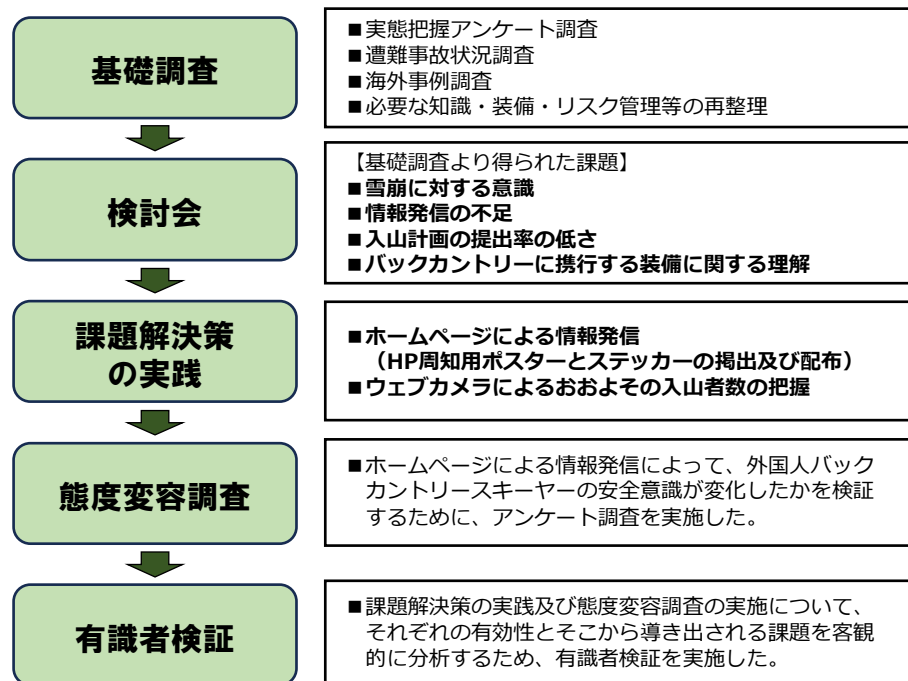
■ 背景

- 冬季における訪日外国人の宿泊者数の増加
- 北海道におけるバックカントリースキーの人気の高まり
- 外国人バックカントリースキーヤーの遭難事故の増加

■ 目的

バックカントリースキーを楽しむ外国人旅行者の増加を見据え、世界最高水準のパウダースノーを誘客の柱とした世界ブランドの確立を目指し、バックカントリースキーヤーが適時・的確に安全を確保するための有効な手法を検討・検証することで、滑走者の安全確保と満足度向上に繋がられるか検証する。

2 事業の実施内容



3 有識者検証（課題解決策・態度変容調査の有効性と課題）

■ ホームページによる情報発信

○有効性・●課題

- 発信者が「公的機関」という信頼感
- ライブコンテンツの提供
- 閲覧がトップページに留まる傾向

■ ウェブカメラによる入山者数の把握

- 日本国内初のバックカントリー入山者のモニタリング実施
- 人数計測における技術的問題
- 更なるモニタリングの必要性

■ 態度変容調査

- 貴重な入山者属性データ
- スキー場索道利用と非利用との差
- サンプルの代表性



4 事業のまとめ

■ 外国人スキーヤーの属性を踏まえた対策

外国人の行動様式・国籍・経験やレベルなどを細分化して、それぞれに応じた予防対策をとっていくことが必要

■ 必要とされる安全対策（情報発信）

- ① バックカントリー情報を一元化したプラットフォーム構築
- ② スキーヤーにとって魅力的な（価値の高い）コンテンツの提供
- ③ プラットフォーム誘導策の集中的展開
- ④ 以上3点の一体的な実施及びプラットフォームのブランディング

5 受託事業者からの提案

■ 取組の主体

多岐にわたる課題の解決に向け、包括的・一体的・継続的な取組を、組織横断的に対応するためには、各課題の所管部署及び雪山に携わる事業者等の関係機関を構成員とした協議会を設立し、各構成員の負担金拠出によって取組のための予算を確保する等、具体的で実効性のある組織運営が期待される

■ 入山者数の適正化（安全対策と観光資源の観点から）

■ 共助による救助組織の再構築